

研究名：

ドパミンチャレンジテストと123I-ioflupane SPECTの関連についての検討

2016年7月

天理よろづ相談所病院神経内科シニアレジデント 月田 和人

レボドパによるドパミン補充療法は、現在でもパーキンソン病治療において中心的な役割を果たしています。それだけでなく、レボドパはその投与によって臨床症候の変化を観察するチャレンジテストとして、パーキンソン病の診断の確認あるいは否定の目的にも広く用いられています。しかし、レボドパはパーキンソン病患者さんが示す多彩な臨床症候に対して同様の効果を示す訳ではありません。

近年日本でも、123I-ioflupane SPECT（商品名；DAT-scan）という名前でドパミン節前神経を可視化する技術の使用が可能になりました。我々はこの123I-ioflupane SPECTを用いて、レボドパがパーキンソン患者さんの多彩な臨床症候に対してどの程度効果があるのかを予測できるのではないかと考えています。もしレボドパによるドパミン補充療法によって、どの臨床症候にどの程度の改善効果が期待できるのかが明らかであれば、薬剤の投与量の調整に役立てられることが期待されます。

本研究においては、2013年4月-2016年6月に当科へ入院し、レボドパチャレンジテストを受け、123I-ioflupane SPECT も受けていただいた患者さんの診療録と画像を参照するのみです。したがって、研究のために検査を追加するなど、患者さんの負担となるような行為は行いません。また、本研究の結果が、学会や医学誌で発表される場合がありますが、患者さんの氏名、生年月日、住所その他、個人を特定できる情報は一切公開いたしません。

上記条件に該当する患者様の中で、本研究の対象となることを拒否される場合は、当院神経内科の月田和人まで御一報下さい。なお、拒否されることで患者さんに不利益が生じることは一切ございません。

※本研究に対して知的財産権が生じた場合、その権利は当院あるいは研究者に属し、患者さんには属しません。

連絡先

天理よろづ相談所病院 神経内科シニアレジデント

月田 和人

電話番号：0743-63-5611（代表）